

事 務 所 便 り NO 7 2 号

社員は「働きがい」を感じているか？

◆「働きがいに関する意識調査」の結果

株式会社 NTT データ経営研究所では、今年9月に「働きがいに関する意識調査」を行い、先日その結果が発表されました。

この調査では、「働きがい」、「働きを高める要因／阻害する要因」、「心の疲弊感」などに関する質問を行っており、昨今の厳しい経営環境で社員がどのようなことを考えて働いているのかがわかり、大変参考になると思います。

◆「働きがい」は低下傾向に

まず、「現在、働きがいを感じていますか」との質問では、「感じている」(13.0%)との回答と「やや感じている」(39.4%)との回答を合わせると、52.4%の人が働きがいを感じていることがわかりました。

しかし、3年前と比べて「働きがいが高くなった」と感じている人(44.8%)は、「働きがいが高まった」と感じている人(22.5%)を大きく上回っています。

◆何が働きを高め、阻害しているか

働きがいを感じているグループにおいて「働きを特に高める要因」について、「仕事の価値の実感」(91.7%)、「仕事を通じての成長実感」(87.9%)、「仕事を通じての力の発揮」(86.3%)、「仕事が適性に合っている実感」(85.5%)、「仕事を通じた達成感」(78.2%)が上位を占めました。

逆に、働きがいを感じていないグループにおいて「働きを特に阻害する要因」について、「会社での将来のキャリアイメージが描けない」(91.7%)、「会社では創造的な仕事を促す環境作りがない」(86.1%)、「会社

の仕組み・制度・組織が整備されていない」(79.9%)、「会社の経営陣による折に触れたビジョンの発信がない」(78.6%)、「会社の将来性がない」(78.4%)が上位を占めました。

◆社員の「モチベーションアップ」

また、「今の仕事をする中で、心の疲弊感を感じていますか」との質問に対しては、「感じている」と答えた人が26.6%、「やや感じている」と答えた人が43.1%で、合わせて約7割(69.7%)の人が「心の疲弊感を感じている」ことが明らかになりました。

これら「働きがい」や「疲弊感」の有無については、社員の個人的要因に基づく場合も多いとは思いますが、しかし、会社として社員一人ひとりの「モチベーションアップ」に貢献できることはないかを考えてみることも大事ではないでしょうか。

仕事や収入の安定と結婚との関係

◆若年失業者は約50万人

現在、若年失業者(15~24歳)の数は約49万人で、このうち学校を卒業後、一度も就職しないまま失業者になっている人は約12万人に上るそうです。

この年齢層の失業率は8.0%(今年9月時点)で、25~34歳の層で見ても5.9%と全世代の平均を上回っており、厚生労働省では「若年雇用は予想以上に厳しい」としています。

また、就職できた若年層についても、手取り収入が減少しています。厚生労働省の調査をもとにした20~30歳代の平均年収(大学卒・大学院卒の男性)の推計は、2009年は前年比4.2%減の478万円となり、3年連続のマイナスでした。10年前を比較すると34万円も減って

います。これは、業績低迷でボーナスが減ったり、賃金の低い非正規雇用の仕事に就かざるを得なかったりする人が多いためと考えられます。

◆非正規雇用社員の男性の既婚率は17%

厚生労働省の資料を基に試算すると、今年9月までの12カ月の累計結婚数は69万組台で、このままいくと、2010年は通年で23年ぶりに70万組の大台を割り込むようです。

20~39歳の男性では、正規雇用社員は約51%が結婚していますが、非正規雇用社員では約17%となっています。

2005~2008年に結婚した40歳までの男性を、結婚時点の所得階層別にみると、年収400万~500万円では26.0%が結婚していますが、100万円未満は8.9%しか結婚していません。

◆「将来への不安」が少子化に影響

上記のように、仕事や収入が安定している若年者は結婚・独立がある程度容易ですが、非正規雇用や低収入の若年者は、親元から離れることができない状況にあります。

その結果、若年層の結婚数が減り、出生率も低迷し、少子化が一段と加速していく可能性があります。経済や社会保障への影響を考えると、政府の若年者に対する雇用改善政策が急務だと思われます。

働く人の睡眠時間はどのくらい？

◆5都市でインターネット調査

味の素株式会社では、世界のビジネスパーソンの「睡眠時間」や「睡眠の満足度」に関するインターネット調査を行い、その結果を発表しました。

この調査は、東京、ニューヨーク（アメリカ）、パリ（フランス）、ストックホルム（スウェーデン）、上海（中国）の30代から50代までのビジネスパーソン（男女計891人）を対象に実施されたものです。この結果を見ていきましょう。

◆睡眠時間の長さは東京が最下位

睡眠時間の長さについては、東京がダントツで最下位となりました。

- (1) 上海……7時間 28分
- (2) スtockホルム……7時間 8分
- (3) パリ……6時間 55分
- (4) ニューヨーク……6時間 35分
- (5) 東京……5時間 59分

東京のビジネスパーソンの睡眠時間の短さの原因は、「就寝時間の遅さ」（5都市で唯一の午前0時台）でした。

◆睡眠の満足度は？

また、睡眠の満足度について「満足」と回答した人は、東京では30%以下であったのに対し、他の4都市では50%以上が「満足」と回答していました。

一方、「不満」と回答した人は、東京は約49%で5都市のうち最も高く、ワースト2のパリ（約38%）よりも10ポイント以上も高くなっています。

◆睡眠時間6時間未満では「早死」のリスク

なお、ウォリック大学（イギリス）とフェデリコ2世大学（イタリア）が今年5月に発表した共同研究結果によれば、1日の睡眠時間が6時間未満の人は「早死するリスク」が高くなるとされています。

この共同研究は、10年間にわたり世界各国の130万人以上を対象に調査したものであり、睡眠時間が1日6時間に満たない人が早死にする確率は、6~8時間の睡眠をとる人に比べて12%も高くなるとのことでした。

この研究チームを率いた教授は、「睡眠時間が短いと糖尿病や肥満、高血圧や高コレステロールを引き起こしやすい」と指摘しているそうです。

23年1月の税務と労働の手続き

- | | |
|-----|--|
| 10日 | ・源泉徴収税額・住民税特別徴収税額の納付
・雇用保険被保険者資格取得届の提出 |
| 20日 | ・特例による源泉徴収税額の納付 |
| 31日 | ・法定調書<源泉徴収票等>の提出
・給与支払報告書の提出
・固定資産税の償却資産に関する申告
・労働者死傷病報告の提出<休業4日未満>
・健保・厚年保険料の納付 |